

治水神・禹王研究会の歴史と現状

竹内晶子・植村善博

History and Current Status of the Association for Research into Yu the Great—God of Flood Control

Akiko TAKEUCHI・Yoshihiro UEMURA

Abstract: The Research Association of King Yu—God of Flood Control, was founded on July 6, 2013, and this year marks its 10th anniversary. The main activities of the Association over the past 10 years are summarized in the chronological table 1. The objectives of the Association include the study of the Yuwang remains and the belief in the god of flood control, King Yu, and King Yu culture, research exchanges with research groups in China and other Asian regions, and organizing the King Yu, Summit. The general meeting is held every spring, and the 9th meeting in 2022 was held at Asahigaoka High School in Odawara City, Kanagawa Prefecture. "The Bulletin of the Research Association of King Yu—God of Flood Control" is the official journal which is published once a year, and it is currently published up to the 9th issue. In addition, the Association publishes a bulletin three times a year and also, disseminate information through the website and facebook.

Keyword: Good of Flood Control; King Yu's Research Association; Trace of Yu the Great; Official newspaper; East Asia

1. 研究会の経過

治水神・禹王研究会が結成されたのは2013年7月6日の高松市でのホテルの懇親会場でのことでした。それから今年で10年が経過しました。表1の年表に過去10年間の活動を整理して示します。

そもそもの始まりは、2006年に神奈川県西部の酒匂川の歴史を調べる市民団体「足柄の歴史再発見クラブ」が発足したことでした。調査を続ける過程で、文命（禹王の名）を祀る福澤神社（旧名文命社）や文命宮を発見していったのです。さらに、大脇良夫氏は京都鴨川にも西の



図1 岐阜県海津市札野の大禹尊像

文命と申す夏禹廟が祀られたことを明らかにし、禹王遺跡について本格的調査を始めたのです。そして、2010年11月に神奈川県開成町で全国の禹王に関心をもつ人たちを集めて「第1回禹王サミット」が開催されたのです。この際、参加者から禹王についての研究集会を定期的に関く要望が出されました。そこで、2011年から毎年3月に京都佛教大学で研究者集会を開きました。その中で、各地の禹王遺跡の情報と研究成果が報告、交流されたのです。その結果、50件以上の禹王遺跡が存在することが明らかになり、これらをまとめて出版したいとの熱意が盛り上がりました。その結果、多くの方に執筆いただき、2013年7月に『治水神禹王を訪ねる旅』（人文書院）が出版されました。これを機に高松市で研究会結成が

決まり、会長に大脇良夫、副会長に植村善博、事務局長に浅田京子が選ばれました。翌2014年3月佛教大学で第1回治水神・禹王研究会の総会・研究大会が開催され、以後毎年春季に総会大会を開催することが恒例となりました。また、2019年に植村善博が会長、関口康弘が副会長、竹内晶子事務局長に交代、京都に事務局を移して活動しています。同年には『禹王と治水の地域史』（古今書院）を出版しています。2022年の第9回総会大会は小田原市の旭丘高等学校で開催されました。また、2023年は研究会の創立10周年にあたり、記念事業として①日本禹王遺跡分布図・一覧の改訂、②10周年記念誌の編集・発行、③日本の禹王遺跡事典の発行を計画しました。①は完了、②は7月に発行予定と順調に作業が進んでいます。

2. 全国禹王サミットの開催

禹王遺跡を有し禹王文化が定着している地域でそれらを文化財、災害文化遺産として普及、再評価するための活動として禹王サミットを開催してきました。これは自治体や地域の住民団体と連携協力し、禹王シンポジウム、地元団体との交流、遺跡の巡検を1泊2日で行うものです。これまで2010年神奈川県開成町、2012年群馬県片品村、2013年香川県高松市、2014年広島県（土砂災害のため中止、報告書発行）、2015年大分県臼杵市、2017年山梨県富士川町そして2019年に岐阜県海津市と7回継続してきました。

特筆されるのは、2017年のサミット

に中国から禹跡行訪日団の8名が参加され、邱志榮氏が講演されたことです。また、京都や淀川の禹王遺跡を案内しました。この際に配布した「日本禹王遺跡分布図・一覧2017」に刺激を受け、帰国後直ちに邱氏や紹興市を中心に紹興禹跡図（2018年）および浙江禹跡図（2019年）を編集、出版されたのです。2018年4月に研究会の4名が紹興市の公祭大禹典礼に招待され、大殿の大禹像に献花し感激したものです。さらに2022年4月の中国禹跡図、日韓禹王遺跡図の編集へとつながっていったのです。

3. 研究会の現状と課題

①設立目的

本研究会は、治水神・禹王の遺跡と文化の研究、中国はじめアジア地域の研究団体との研究交流、禹王サミットの支援、共同開催を主な活動目的として各事業を推進しています。

②会員と組織

2022年5月現在、会員数は128名で、北海道から鹿児島県まで全国各地に会員を有すほか、中国に2名の会員がいます。研究者、教員、行政関係者、歴史愛好家など様々な人たちが研究と交流活動をしています。会長、副会長、顧問、理事、監事を設置し、理事会により重要事項を審議します。また事業遂行のために事務局が置かれています。

③主な活動、事業・総会・研究大会

年1回、総会・研究大会を実施し、会員の総意のもと研究会運営を図るほか、研究発表、特別講演などを通じ研究の深化に努めています。

・ 禹王遺跡認定委員会

年数回開かれ、2015年に定められた「禹王認定基準」の認定条件に則り、新たな遺跡の認定を行っています。

・ ホームページ、フェイスブックによる情報発信をおこなっています。

④刊行物

・ 『治水神・禹王研究会誌』年1回
創刊号（2014）～9号（2022）：論文、報告、禹王遺跡レポート、日本禹王遺跡一覧を掲載し、本研究会の中核をなす機関誌。

・ 『会報』年3回 1号～22号（2022年5月）：会員相互の最新情報や研究動向を会員に伝える。

出版物：・大脇良夫・植村善博編『治水神禹王をたずねる旅』、人文書院、2013年

・ 植村善博・治水神・禹王研究会『禹王と治水の地域史』古今書院、2019年

・ 治水神・禹王研究会「災害文化遺産 日本の禹王遺跡と治水神・禹王信仰展」2018年

・ 「日本禹王分布図、一覧表」2017年度版、2022年度版

⑤アンケートよりみた本会の現状と課題

本研究会では創立10周年を迎えるにあたり、現状と課題を探るためアンケートを実施しました。⁽¹⁾ 回答率は36%でしたが、会員全体の傾向を反映していると考えられます。回答者の居住地は、酒匂川流域を含む神奈川県が15件（34.1%）と圧倒的に多く、京都、大阪、兵庫をはじめとする近畿地方、さらに群馬や岐阜、香川、広島といった禹王サミットの開催地（または開催が計画された地域）が続きます。

入会理由は、「会員の紹介」17件（40.5%）が多く、地域コミュニティ間で禹王が共有されている結果だと考えられます。ついで「禹王に関心ある」14件（33.3%）、「歴史興味」5件（11.9%）、「治水」4件（9.5%）、「サミットの時」2件（4.8%）が続きます。年齢構成は、60代10件（22.2%）、70代18件（40.0%）、80代12件（26.7%）と60代以上が9割近くを占めています。

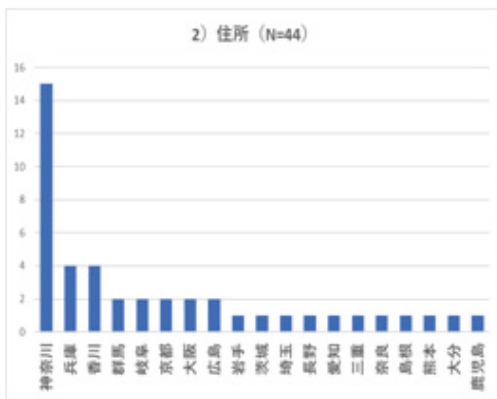


図2 会員居住地（都道府県別）

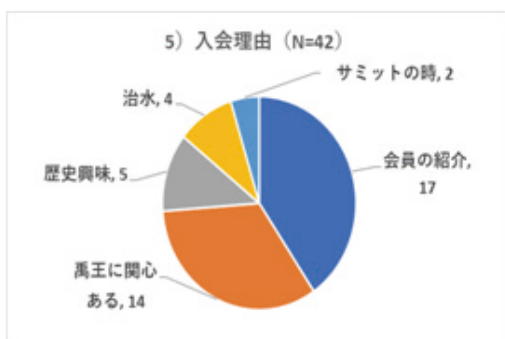


図3 入会理由

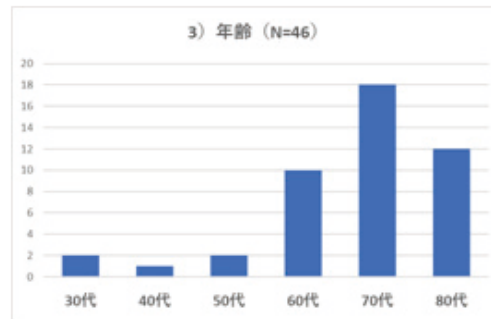


図4 会員年齢別（図1、2、3 谷端・大邑「アンケートまとめ」より）

アンケート結果から見られる課題としては、60歳代以上が会員の9割を占めるという会員の高齢化があげられます。今後、禹王や禹王遺跡研究を更に深化、発展させるには、若い世代の興味を呼び起こし入会を促すことが肝要です。そのためには、防災や地域おこしの中で禹王遺跡への関心を高め、地域に根差した顕彰や研究を活発化するなど多角的な面から禹王や禹王遺跡へのアプローチを図る取り組みが求められます。

(1) 谷端 郷・大邑潤三「2021年 治水神・禹王研究会アンケート調査の結果とまとめ」, 2021



2022年小田原市の総会・研究大会

治水神・禹王研究会の活動

(付録)

西暦	治水神・禹王研究会の活動	遺跡数
2006	1月足柄の歴史再発見クラブ発足	
2010	11月27～28日第1回禹王サミットを神奈川県開成町で開催	
2011	3月13日第1回全国禹王研究者集会を佛教大学で開催、21名参加	18
	10月10月26日～11月2日 第1回黄河と禹王治水伝説旅行（18名）	
2012	3月17日第2回全国禹王研究者集会を佛教大学で開催(35名)	22
	4月11日～18日第2回黄河と禹王治水伝説旅行（9名）	
	10月21～22日第2回禹王サミットを群馬県片品村で開催	
2013	3月16日第3回全国禹王研究者集会を佛教大学で開催(10名)	57
	7月6～7日第3回禹王サミットを香川県高松市で開催	
	7月6日夜の懇親会で治水神・禹王研究会の創立を宣言、会長に大脇良夫氏を選任、事務局を神奈川県開成町に置き浅田事務局長を中心に活動	
	10月21日～26日第3回禹王治水伝説の旅（18名）	63
2014	3月15日第1回治水神・禹王研究会総会研究大会を佛教大学で開催（40名）	
	10月18～19日第4回禹王サミット広島は災害のため中止、報告書作成	91
2015	4月5日第2回治水神・禹王研究会総会研究大会を佛教大学で開催（50名）	
	9月12～13日第5回禹王サミットを大分県臼杵市で開催	97
2016	4月17日第3回治水神・禹王研究会総会研究大会を佛教大学で開催（42名）	107
2017	3月26日第4回治水神・禹王研究会総会研究大会を佛教大学で開催（61名）	124
	10月7～8日第6回禹王サミットを山梨県富士川町で開催	
	中国の禹跡行訪日団8名がサミットに参加、邱志榮氏講演、	
	10日禹跡行訪日団を京都および淀川の禹王遺跡に案内	
2018	3月16日～5月15日立命館大学歴史都市防災研究所ホールにて企画展示：災害文化遺産、禹王遺跡と治水神・禹王信仰展を同研究所と共催（見学者500名）	
	4月13日第5回治水神・禹王研究会を立命館大学末川記念館で開催（45名）	126
	4月19～21日紹興市の公祭大禹陵典礼に4名が招待参加する	132
2019	3月30日第6回治水神・禹王研究会総会・研究大会を法政大学で開催、植村善博を会長に選任、4月から事務局を京都に置き竹内事務局長を中心に活動	153
2020	3月17日第7回治水神・禹王研究会総会はコロナウイルス感染症のため中止、総会の議案など郵送して書面総会とする	165
2021	3月27日第8回治水神・禹王研究会総会研究大会 ハートピア京都でズーム配信併用で開催（会場参加23名、オンライン15名計38名）	
	10月1日東アジア禹跡図編集のため日本禹王遺跡分布図・一覧2021を紹興市の浙江越秀外国語学院へ提供	
2022	4月日本禹王遺跡地図2022および遺跡一覧の発行	
	4月2日第9回治水神・禹王研究会総会・研究大会 小田原市旭丘高等学校でズーム配信併用で開催（会場参加123名）、3日は酒匂川バス巡検（参加33名）	

(作者紹介：竹内晶子、治水神禹王研究会事務局長；
植村善博、治水神禹王研究会会長)